小学校専門生活（社会領域）

－ 社会認識につながる活動や体験の組織化 －

担当者：高　山　博　之
川　崎　英　一

1．授業内容設定の主旨とその観点

生活科の学力は四つの側面から成り立つと考えられる。第一は，身近な社会や自然及び自分に対する興味・関心などの情意的側面。第二には，認知面は余り重視しないが「気付き」という形での社会認識，自然認識及びそれらと関わる自己認識。第三には，学習過程における社会や自然への取り組み方や活動によって得られる成果がある。これらには，思考力，観察力，追求力，情報活用力，表現力などの諸能力が関わっている。第四には，生活上必要な習慣・技能がある。学力は，すべての側面の総体として働き，授業も様々な側面を包含した形で組織化されるが，授業を分析的にとらえて追求することも重要な意味を持っている。

ここでは，社会認識につながる子どもの活動や体験を取り上げ，それらを価値的に組織化する方法を考察してみたい。具体的には，子どもの社会認識の特徴をおさえ，活動や体験を通して獲得しうる社会や人間関係への「気付き」とは何かを吟味し，授業に組み入れることである。また，それらをどう評価できるか，評価基準や評価方法を工夫することである。

本授業では，まず，社会認識の特徴を掴ませ，社会的事象の観察と表現の方法について学習させる。社会的事象は，自然的事象と異なって，目に見えないものが多く，一回性である。認識のしかたも，個性的で，発達段階や認識主体及び対象の変化によって変化する。従って，観察活動も，見えるものから見えないものへと発展させることが大切であり，また，子どもの個性的な気付きを重視する必要がある。

そこで，子どもの観察や認識の実態，表現の事例を多く取り上げ，社会認識につながる学習内容や活動を具体的に検討していきたい。さらに，ＶＴＲなどを用いて実際の授業場面を再現し，子どもの活動の特徴をとらえさせるとともに，どんな活動や体験が，どのような社会認識につながっていくのかを吟味する。この結果をもとに，社会への関心，社会への気付き，社会と自分との関わりなどを授業としてどう組織化するかを考察させようと構想している。

2．授　業　の　内　容

第一回の授業

(1)　「社会性」という面から見た子どもの問題点と教育課題（講義と作業）

家庭生活や社会生活の大きな変化にともなって，子どもの現実社会との関わりが希薄になっている。社会や自然を直接に体験して学習する機会が減少し，社会参加も乏しく，社会のメンバーとして役割を果たす機会が余りない。

これらの問題をふまえ，子どもの「社会化」を促すためには，どのような方策が必要かを検討させ，生活科との関連について考察させ発表させる。

具体的には，集団遊び，家事労働への参加，地域活動，ボランティア活動，奉仕活動，異

年齢集団の経験などが検討の柱になるが，それらを実現する上で隘路になっている問題点や生活科の学習においてどう展開できるかを考察させる。

(2) 子どもの社会認識の特徴（講義）

社会認識と自然認識の違い，社会認識の特徴と学習上の留意点，生活経験や遊びと社会認識との関係，低学年児童の社会認識の能力と特徴などが講義の主な内容である。とくに，経験や遊びは，生活科と密接に関わる事柄であり，その事例を多く提示する。

(3) 社会的事象を把握する諸能力と生活科における評価活動（講義）

生活科の学力について冒頭にあげたが，評価活動はその学力観に立って行わなければならない。その評価観は，子どもの主体的な活動，体験を重視すること，一人ひとりに即した評価であること，実践的な態度を重視することなどがポイントである。

指導要録に示された観点別評価もふまえて学習評価を計画するが，一方で授業評価も同時に行う必要がある。学習評価，授業評価をどう計画し，実施するかについて，実践例をあげながら解説する。

(4) 生活科における観察活動の実際（講義と作業）

生活科の学力の重要な一要素である観察力について，とくに深く考察させる。まず，低学年児童の観察力の実態を実例をあげて解説するが，「バスの運転手さんは，安全のためにどんなことに気をつけているのだろうか」という事例をあげ，観察結果をペーパーに表現する作業をし，児童の表現と比較してみる。

次に，社会的事象の観察の方法について考察させるが，認知面を重視する社会科や理科における観察活動との違いを明確におさえておく必要がある。

観察方法の具体としては，次の事柄を事例をもとに検討させる。

①事実に直面しリアルに問題をとらえる　②想像や直観を大切にする　③じっと見る（形，色，大きさ，においなど個体観察）　④くらべて見る（比較的観察）　⑤数えて見る（定量的観察）　⑥分ける，つなげる（関係的観察）　⑦継続して見る（継続的観察）等々。

社会的事象は，見えないものが多い。それを見えるようにする教材の工夫が大切であり，また，観察結果の表現についても様々に考察させたい。

第二回の授業

(1) ビデオ「ふれあい郵便局を聞こう」（ＮＨＫ，Ｈ1.12.29放送）を視聴させる。

＜ビデオ教材の主な内容（香川県宇多津小学校の実践）＞

1）宇多津小学校の校区と校内の環境

2）単元「ふれあい郵便局を開こう」のねらいと指導計画（21時間－本時はその7・8時間目）

3）本時の活動

・日頃，お世話になっている給食センターの人，保健の先生，用務員のおばさん，事務のお姉さんに，感謝の手紙を出そうと全校生に呼びかける準備〔①手紙の書き方の分からない人に教えてあげる準備 ②郵便局の窓口や表の準備 ③全校の人にＰＲする準備〕をする。

4）　本単元の授業についての講評

(2) ビデオ教材を視聴しながら，特に次の①，②について気づいたことをメモさせておき，視聴後，それらについてディスカッションをまじえて考察させる。

① つぶやきや表情をもふくむ児童の動きの中で，教科や単元のねらいからみて，積極的に評価できるもの

② 次のア～オの観点からみた指導者の工夫や配慮

ア．単元の設定とねらい及びその指導計画

イ．班分け，班の人数などをふくむグループ活動に関する指導

ウ．個々の児童に対する助言や指示

エ．準備物（何をどれだけ，どの程度まで準備しているか）

オ．その他

＜授業の趣旨及び配慮事項＞

(1) 明確な視点をもって授業を分析的に観察することの必要性や，細かくメモをとりながら観察することの必要性を体験的に理解させ，授業観察力を高める。

(2) 単元の設定や指導計画立案をふくむ事前の教材研究や準備，授業中の教師の指示や助言，授業後の評価（児童の自己評価もふくむ）等について考察させることにより，「自分と身近な社会とのかかわりに関心をもたせる」ための児童の活動，体験を組織する授業の構成力を高める。特に，児童と共に考えていく授業を組織する上で必要な工夫や配慮を，単元の設定から授業後の評価まで，ビデオ教材の内容を中心に具体的に考察させる。

第三回の授業

(1) 「おかあさんと自分とのかかわり」に気づかせる活動，体験について考察させる。

(2) 「自分の成長には多くの人々の支えがある」ことに気づかせる活動，体験について考察させる。

＜授業の趣旨及び配慮事項＞

・児童の社会的思考力を育てる活動，体験を組織化する能力を高める。一般的に，児童には「自分と社会とのかかわり」は見えないものである。したがって，児童の目に見える事物を観察させたり，自ら活動，体験させることにより「自分と社会とのかかわり」を児童自身にも見えるよう，児童自身が肌で感じとれるよう，教材，教具を工夫，準備する必要があることに気づかせる。

(1) 「せんたく」の授業例の考察－「おかあさんのせんたくを手つだってあげよう。上手な洗い方や干し方を教えてもらおう」と指示して，家庭での洗濯を母と共に体験させることにより，児童は洗濯に関する一連の仕事を主体的に受けとめて，自分や妹，父がさっぱりした肌着を身につけられるのは母のおかげであること，母の多忙さ，家事の大切さや大変さに気づいていくことに注目させる。

(2) 「わたしが生まれてから」の授業例の考察－クラスの一人をモデルにして，その子の誕生時の服，帽子，手袋，靴を見せたり，誕生時，3歳時，現在の体重に合わせた粘土のかたまりを持ち上げさせたりすることにより，身体の成長に気づいていくことや，近所の赤ちゃんの様子の観察や「おむつ」「哺乳瓶」など赤ちゃんの生活に欠かせない具体物を観察させ，それぞれの必要性を話し合わせる中で，何でも一人でできるし，話をしたり書くことのできる今の自分の精神面での成長にも気づいていくこと，そして，この成長には，家族，親類，近所，病院，保育園や幼稚園，学校などの多くの人々の支えがあることにも気づいていくことに注目させる。

京都教育大学　機関リポジトリ　クエリの森



この文献は、国立情報学研究所において電子化されたものを、本学でテキスト加工したものです。